



現在、学校では運動会や文化祭、合唱コンクール等の学校行事の充実を図ったり、少人数指導等、教科によって効果的な学習形態を展開したりしています。特に中学校の部活動は、子どもたちにとっては一生の思い出になる活動でもあり、先生方も一生懸命取り組んでいるところです。このように、学校は色々な教育活動を通して、子どもたちが色々な仲間と出会い、色々な経験を通して、互いに人間として大きく成長していく場でもあります。

むしろそういった経験を多く積むことで、「生きる力」を育むことができると考えています。

学校教育の大きな役割の中に、集団づくりや人間関係づくり、学校行事、様々な体験活動、部活動等を通して、「学力」以外にも、「豊かな人間性」や「健やかな身体」を育てていかなければなりません。しかし、学校の小規模化によってそういった経験の機会が少なくなりつつあると考えています。

私たちが10年後、20年後の伊勢市を考えた時、少子化は避けられないかもしれませんが、子どもたちが互いの人格を尊重しながら、学習やスポーツの面で切磋琢磨できる教育環境をつくるためには、学校が一定の大きさの規模を持ち、各学年複数クラスあり、クラス替えを行いながら絶えず新しい経験を多く積んでいくことが必要であると考えています。

子どもたちの可能性を最大限に伸ばし、より充実した学校生活にするためにも、望ましい教育環境を整備していく必要があると考えますので、ご理解・ご協力をいただきますようお願いいたします。



伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画(案)

～子どもたちが「生きる力」を育むことができる学校づくりに向けて～

**子どもたち一人ひとりの可能性を伸ばし
子どもたちが安心して安全な生活を送ることが
できる魅力ある学校を創るために**



伊勢市教育委員会

説明会や意見交換会でいただいた質問をQ&Aにまとめました。

Q1：少子化による学校の小規模化はどの程度進んでいるのか？

A1：伊勢市の児童生徒数は30年ほど前に比べ半数近くまで減少しています。20年後にはピーク時の1/3程度まで少なくなると予想されています。

平成23年度は、全学年1学級の学校は、小学校24校中9校、中学校では12校中1校です。また、1学級の児童生徒数も減少し、すでに1学級が10人以下の学級もあります。

今後も少子化は進み、さらに学校の小規模化が進むことが考えられます。



Q2：「適正規模」と言うが、理想的な規模はあるのか？

A2：人間関係に配慮した学級編制、習熟の程度に応じた学習、体育や音楽での集団活動、活発な班活動や児童・生徒会活動等、子どもたちの多様な教育活動を展開するためには各学年複数クラスあり、クラス替えができる規模が必要なことは言うまでもありません。また、1学級の人数は理想的には25人程度の学級が望ましいと考えていますが、成長段階に応じて柔軟に対応していきたいと考えています。



Q3：統廃合は、いつごろから始まるのか？

A3：統廃合は、5年をスパンに3期に分けて進めていきたいと考えています。学校を新設する場合は、用地の確保や建設だけでも日数が掛かり、学校の統廃合は一気に進めることはできません。何よりも統合までの学校間の交流や綿密な情報交換など、子どもたちの生活を第一に考える必要があります。特に東日本大震災の教訓から、沿岸部の学校については、子どもたちの安心・安全の確保を第一に、早急に進めたいと考えています。



Q4：防災機能はどうなるのか？

A4：東日本大震災の教訓から、沿岸部に学校が多い伊勢市では一刻も早い対策が求められています。高台の少ない本市においては学校の高層化(4階建て以上の校舎の建設)が必要となります。その場合、高層階に多目的ホールを設置して緊急避難に対応したり、長期にわたる避難生活が予想される場合には、外付け階段やエレベータの設置、物資の保存管理など、防災だけでなく避難生活を支えたりする機能を持つ校舎の建設が必要と考えています。



Q5：統廃合で通学距離が長くなることが考えられるが、通学手段はどう考えているか？

A5：「小学校においては学校から半径2kmを超える児童については通学手段を講じる」ことを考えています。つまり通学距離が2km以上の児童については全額市の負担でスクールバスなどの交通手段を講じたいと考えています。中学校においても自転車通学に加え、通学距離が6kmを超える生徒については小学校と同様に通学手段を講じたいと考えています。



Q6：子どもたちが新しい学校になじむために、どんなことを考えているか？

A6：統合による弊害をなくし、「みんなが気持ちよく安心して通える学校」を目指すために、子どもたちの生活を第一に考え、統合までに学校間の行事や学習・スポーツ面での交流を十分図り、両校のふれあいを進めます。また、「いじめ0」を目指すために「子どもリレーションシップ総合推進事業」を一層進めていきたいと考えています。



Q7：校区が広くなることにより、放課後の子どもたちの交流や遊びの範囲が広くなることについての心配はないのか？

A7：交通事故や不審者問題など、校区の拡大により懸念される問題への対処については、学校・保護者・地域の方々と十分連携し、対策を練っていく必要があります。また、伊勢市全体のまちづくりの中で、道路網の整備や街灯の設置といったハード面とともに、新しい地域教育コミュニティの形成が必要と考えます。また、放課後児童クラブの設置など、子どもたちの安全が保障される場の確保を進めていきたいと考えています。



Q8：小規模校には小さいからこそ良い面があるのではないかと？

A8：小規模校では、子どもたち一人ひとりに目が行き届き、きめ細やかな指導が行いやすいなどのメリットがあります。一方で、クラス替えがないことによる子どもたちの人間関係の固定化や序列化が進む可能性があります。

未来を担う子どもたちの将来を考えた時、学校または学級が集団として一定の大きさを持つことにより、学習やスポーツ面においても子どもたちの可能性を伸ばすことができる環境をつくることできると考えています。



Q9：空調設備の実現はどうなるのか？

A9：今回の統廃合の計画に伴い、総合的に望ましい教育環境の整備を考えています。特に、空調設備については全ての学校に設置したいと考えています。新設校はもとより、現在の校舎を使用する場合にも早急に空調設備の設置を目指します。また、新設に至るまでの間の校舎についてもリース等の空調設備を設置したいと考えています。



Q10：学校の跡地利用はどうなるのか？ 地域が寂れることが心配、活性化はあるのか？

A10：跡地利用については、地域の皆さんの夢や希望をまとめ、市全体で構想を練ることが必要です。防災拠点のみならず地域の核となる様々な活動が生まれ、展開されるよう地域の皆様と協議を進めます。

